

春季特別展 「5世紀のヤマト～まほろばの世界～」開催結果報告

1 展覧会

開催趣旨 5世紀は日本列島最大規模をもつ大山古墳、第2位の誉田御廟山古墳が築造された時代である。3世紀に大型前方後円墳を成立させた奈良盆地においても、佐紀古墳群・馬見古墳群をはじめとした盆地内各所において、多くの大型前方後円墳が築造された。さらに近年、奈良盆地内において「王宮」に関連する遺跡や、政権の中枢部を占めた有力豪族に関わる大規模な集落遺跡や生産遺跡の実態が明らかになりつつある。最新の調査成果をふまえ、上記の考古資料を奈良盆地と大阪平野で対比しながら展覧し、5世紀における政治の中心地の実態を検討した。

会期 2013年4月20日(土)～6月16日(日)(会期 50日)

展示構成と主な展示品 序 巨大古墳と巨大集落の世紀 犬形埴輪(大山古墳)、笠形木製品(誉田御廟山古墳)、木製扉(讚良郡条里遺跡) 柱材(西大寺東遺跡) I はにわを比べる① 古墳のかたちと埴輪 笠形木製品(土師ニサンザイ古墳)、円筒埴輪(土師ニサンザイ古墳・乙女山古墳) ②古市・百舌鳥古墳群とヤマトの埴輪 盾持ち人埴輪(茅原大墓古墳・墓山古墳・野中宮山古墳)、水鳥形埴輪(津堂城山古墳・巢山古墳)、導水施設形埴輪(狼塚古墳)、船形埴輪(岡古墳) ③ヤマトの円筒埴輪 円筒埴輪(室宮山古墳・平塚1号墳・コナベ古墳・市野山古墳) II 5世紀のヤマト ① 馬見古墳群 滑石製大勾玉(巢山古墳)、鉄製農工具、滑石製模造品(ナガレ山古墳)、人物埴輪(河合大塚山古墳) ②佐紀古墳群 柵形埴輪(佐紀石塚山古墳)、水鳥形埴輪(平塚1号墳)、円筒埴輪(市庭古墳)、鉄鋌・鉄製農工具(大和6号墳)、③ヤマトの生産力 木製祭祀具・農具(平城宮下層) 玉未製品(秦楽寺遺跡) ④有力豪族の台頭 馬具・鉄製工具類(ベンショ塚古墳)・陶質土器(室宮山古墳) 木製刀装具・鍛冶工具・韓式系土器(布留遺跡) III 進取の気性と伝統の保持 鉄製農工具・滑石製模造品(西墓山古墳)、木製鞍(陵南北遺跡・葦屋北遺跡)、蒙古鉢形冑・帯金具・挂甲(五条猫塚古墳) 円筒形土製品(新村里9号墳) IV 「王宮」の所在地 鉄剣復元品・レプリカ(埼玉稻荷山古墳・江田船山古墳)、土器類(上町谷窯・法円坂遺跡) **所蔵・保管** 大阪府教育委員会、大阪府立近つ飛鳥博物館、(財)大阪文化財研究所、河合町教育委員会、宮内庁書陵部、広陵町教育委員会、国立歴史民俗博物館、五條市教育委員会、御所市教育委員会、堺市教育委員会、桜井市教育委員会、田原本町教育委員会、天理大学附属天理参考館、奈良国立博物館、奈良市教育委員会、奈良文化財研究所、藤井寺市教育委員会、埋蔵文化財天理教調査団 展示品合計 942点 入館者総数 11310人 図録販売 1228冊

2 研究講座

●第1回 4月28日(日) 聴講者 438名

坂 靖(当館)「5世紀のまほろば～政治の中心地はどこか～」／一瀬和夫氏(京都橘大学)「古市古墳群と百舌鳥古墳群からみた5世紀」

●第2回 5月19日(日) 聴講者 278名

清喜裕二氏(宮内庁)「5世紀の鉄器副葬～大和6号墳出土遺物の分析を中心として～」／菱田哲郎氏(京都府立大学)「5世紀の手工業生産と政治拠点」

●第3回 6月9日(日) 聴講者 427名

古市晃氏(神戸大学)「5世紀の王宮を探る～王宮・王族・叛逆伝承～」／和田晴吾氏(立命館大学)「5世紀の政権構造」
※研究講座3回の聴講者は、合計 1143名

3 列品解説

4月28日(日) 聴講者 97名／5月19日(日) 聴講者 103名／6月9日(日) 聴講者 80名 合計 280名

4 関連イベント

5月18日(土) 遺跡見学会 馬見古墳群を歩く 池上古墳・乙女山古墳・巢山古墳・新木山古墳など馬見古墳群中央群の古墳を現地解説 参加者 163名

5月7日(火)～5月15日(水) 春季特別展「5世紀のヤマト～まほろばの世界～」ブリーフガイド
(於:奈良まほろば館) ※5月11日(土) 13:30～ 15:30～ 奈良まほろば館セミナー
参加者・聴講者合計 240名

6月12日(水) 春季特別展「5世紀のヤマト～まほろばの世界～」への誘い(展示解説とパネル展示)
(近鉄橿原店「こころとカラダの健康フェア」) 参加者・聴講者合計 63名

特別陳列 「古代パルミラの人々」ーシルクロードの隊商都市に生きるー開催結果報告

1 展覧会

開催趣旨

パルミラはシリア沙漠中央に位置するオアシスに形成された隊商都市であり、パルミラはギリシャ語で「ナツメヤシ」の意味で、アレキサンダー大王の東征以降、この名で呼ばれてきた。BC 1 世紀から AD 3 世紀までがパルミラの最盛期です。当時ローマ帝国、パルティア、クシャーン、後漢の 4 大帝国がシルクロード上に繁栄したが、この大国間の緊張関係を巧みに利用して、また交易の中継地点として、パルミラは大いに繁栄した。特にローマとの関係が深く、ローマ帝国の植民都市の中でも高位に位置づけられ、その絶頂期の AD3 世紀、女王ゼノビアの時代にローマ帝国に滅ぼされた。このような地に奈良隊は、1990～2011 年まで継続的な発掘調査を進め、多くの成果を挙げ、今回、この 22 年におよぶ奈良隊の発掘調査の成果の一部として、世界で初めての試みであるパルミラの墓に葬られた人物の頭骨に肉付けし、復顔をおこなった。そしてそれらを同じ墓に納められたその人物の彫像の顔と比較し、互いに似るのか、似ないのかを検証した。パルミラ人の葬送用彫像への思いと 2000 年前のパルミラ人を紹介した。

会期 平成 25 (2013) 年 6 月 29 日 (土) ～ 7 月 28 日 (日)

展示構成と主な展示品

展示構成 プロローグ： パルミラとは (パネル展示) 第 1 章：パルミラ遺跡東南墓地での奈良隊の調査 (パネル展示) 第 2 章：C 号墓：ヤルハイの墓 (パネル展示) 第 3 章： C 号墓出土ヤルハイ・R4-2 頭骨の復顔第 4 章：骨から見たパルミラ人の病 (パネル展示) 第 5 章：現在パルミラの沙漠で生きる人々：ベドウィンの家族 (パネル展示)

主な展示品 C 号墓出土ヤルハイ頭骨と頭骨複製、ヤルハイ胸像 (複製)、ヤルハイ復顔像 (日本・ロシア作成)、C 号墓出土 R4-2 男性頭骨と頭骨複製、R4-2 男性復顔像 (日本・ロシア作成)、C 号墓出土半円形葬送用彫像 (複製)、少年ヤルハイ像 (複製)、F 号墓出土建造碑文 (複製)、写真「現在のパルミラの沙漠で生きる人々：ベドウィンの家族 (吉竹めぐみ撮影) 展示品合計 30 点 入館者数 3470 名

2 研究講座

日時：平成 25 年 7 月 13 日 (土) 13 時～16 時 30 分 (正午会場、13 時開演)

場所：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1 階講堂

聴講者数 134 名

西藤清秀 (奈良県立橿原考古学研究所附属博物館長) 「復顔されたパルミラ人が埋葬されていた墓」

中橋孝博 (九州大学名誉教授) 「シルクロードの隊商都市パルミラ人はどのような人々か？」

翁讓 (彫刻家、中橋孝博、西藤清秀) 「パルミラ人の復顔を試みる」

ユセフ・カンジョ (Dr.Youssef Kanjou) (シリア・アレッポ博物館長) 「シリア・アレッポ博物館の現状」